

## 基本目標4 新しいひとの流れによる“にぎわい”の創出

### 【基本的な方向】

若者が住みよい住環境や、Uターンを促進していくとともに、町の各種資源を最大限活用し、官民協働によるまちづくりの推進や国際交流を推進することで交流人口の拡大を図り、地域への波及効果を高めていきます。



数値目標  
2025（令和7）年

純移動数（転入－転出） 現状より減少  
（住民基本台帳） 【2018（平成30）年 転出超過81人】  
宿泊客数 76,000人 →31,000人  
（企画観光課調べ）【2018（平成30）年 69,418人】  
→【2020（令和2）年 25,228人】

### 【施策②】 にぎわいづくり

#### 【現状と課題】

若者の定住率が低い状況にあります。まちに“にぎわい”がないと人も離れていってしまうため、町のにぎわいづくりは重要です。

これまで地域資源を活用したイベントの開催などにより、“にぎわい”を創出し、新しい人の流れをつくってきましたが、一過性のにぎわいとなっている場合が多く、継続的ににぎわいにつながっていません。

また、未使用の公共施設や空き家・空き地も多いことからこれらをもっと活用する必要があります。

#### 【今後の方向性】

町の資源である自然・食・文化を活かしたイベントに対する支援のほか、町民自らが主体となるまちづくり活動に対し支援し、官民協働によるまちづくりを推進します。

また、地域全体の魅力を高め、近隣自治体と連携した広域観光や、国内観光需要の喚起に繋がる取組を促進させるとともに、外国人観光客の受入環境整備、国際交流の推進などによりさらなる交流人口の拡大を図ります。

重要業績評価指標（KPI）	基準値 2018（平成30年）	目標値 2025（令和7）年
住民参加型まちづくり事業 申請件数（企画観光課調べ）	0件	10件
外国人宿泊客数 →国内宿泊客数 （企画観光課調べ）	7,038人 →24,248人 （令和2年）	10,000人 →30,900人

## 【主な取組】

- ◆ 資源・人材を活かしたにぎわいづくり  
町の資源を活かした四季折々のイベントに対する支援のほか、町民自らが地域課題の解決や地域の活性化につながる活動を実施することに対し支援します。
- ◆ 街なか商店活性化支援  
商工会をはじめとした商店街の活性化を推進する体制を整備します。
- ◆ スポーツ行事の活性化支援  
スポーツ大会等を積極的に誘致することで来町者を増やし、町が活性化するよう努めます。
- ◆ 魅力ある観光地域づくり  
特色ある観光資源をもつ津軽地域が相互に連携し、稼げる観光まちづくり組織（圏域版 DMO）を構築するとともに、町内観光施設等の受入環境整備により、観光客が快適に過ごせるよう、にぎわい拠点の魅力を高めます。
- ◆ 外国人誘客の促進  
外国人観光客の受入環境を整備するとともに、国際交流を推進することで新たな人の流れをつくり、交流人口の拡大を図ります。
- ◆ 国内観光需要喚起  
旅行ニーズの変化に対応し、安全・安心に旅行できる環境づくりや国内観光需要の喚起に取り組みます。